

「事業名:福島復興知学の深化と展開:ミルフィーユ型人材の育成基盤構築」 2021年度補助事業の実績・成果

東京大学(共同申請:福島工業高等専門学校)

連携市町村:いわき市、大熊町、広野町、葛尾村、富岡町、楡葉町、

現地拠点:双葉郡楡葉町下小埦麦入31楡葉町まなび館2階、双葉郡広野町下北迫大谷地原65-3二ツ沼公園パークギャラリー
いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校内、

事業のポイント

復興知とイノベーション・コースト構想の推進に必要な多層的な知識・技能を身につけた人材を「ミルフィーユ型人材」とし、自治体・大学等・企業等と連携してミルフィーユ型人材を育成する。さらに、ミルフィーユ型人材育成を通じて、産業創出や国際的情報発信も行う。

今年度の活動実績

【地域の創造的復興を担う人材の育成基盤構築】

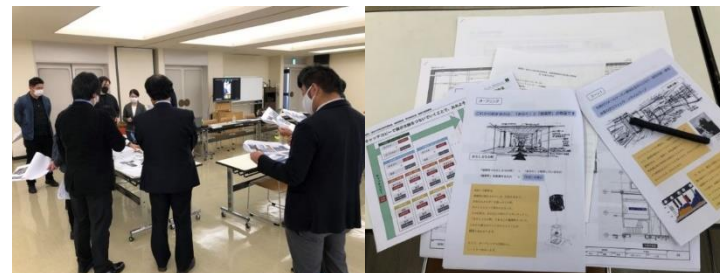
- ・楡葉町と連携して、復興知のアウトリーチ活動も担う合同展示資料のデザインを実施した。また、関連する市民講演会を楡葉町で実施した。
- ・市民講演会、企業向けセミナー、自治体向けに各種セミナー等を連携自治体で11回実施した。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の必要性から、セミナーの一部を多言語(6言語)オンライン公開(民間動画配信サービスを利用)した。
- ・オンライン国際会議ワークショップを開催し、過去の復興知事業成果に関する発展について議論して情報発信した。

【福島を舞台として、世界的視野で福島の発展を担える人材の育成基盤構築】

- ・東京大学、福島工業高等専門学校で復興知教育プログラムを実施し、100名以上の学生の教育を実施した(復興知講義、放射線環境講義、放射化学など)。
- ・連携する浜通り自治体・施設等に大学生等を50名以上派遣し(10月1-3日、12月25-26日、1月15-16日)、フィールド学習と地域交流を実施した。
- ・放射線取扱主任者資格取得にも有効なオンライン講義を4回実施した。

今年度の成果

- ・エコミュージアム事業を基軸として、地元自治体との連携、地元企業との連携(旅行会社と共同して浜通り修学コースの策定など)、地元NPOとの連携(語り部事業など)が着実に進展した。
- ・東京大学の学生と福島高専の学生が合同してフィールド学習を実施することで(3回実施)、浜通り地域内外の若者交流を促進した。



楡葉町と連携した博物館資料展示をデザインする様子。



復興知・市民講演会の様子。



10月1-3日のフィールド学習の様子。地元新聞でも報道される。